



認定NPO法人サービスグラント

東京事務局（団体本部）

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1-2-10
TEL 03-6419-4021
FAX 03-6419-3885

関西事務局

〒541-0047
大阪市中央区淡路町2-5-16
淡路町ビル8F
TEL 06-6484-5810
FAX 06-6484-5820



HP <https://www.servicegrant.or.jp/>
Facebook <https://www.facebook.com/servicegrant>
Instagram <https://www.instagram.com/doitprobono/>
X <https://x.com/helloprobono>
YouTube <https://www.youtube.com/c/ServiceGrant>



2024-2025

(2024年4月1日-2025年3月31日)

年次報告書

2024年度 TOPICS

QUALITY PRO BONO EVERYWHERE



6つの新規事業を開発

YOUTHプロボノ/ママボノNEXT/クリエイティブプロボノ/関西コミュニティHUB/ファンドレイジング/NFT×ソーシャル履歴書



36カ国60以上の組織が所属する
グローバルプロボノネットワークの事務局に

VISION

社会参加先進国へ

社会課題を前に、互いの立場や違いを尊重しながら、
当たり前のように協働できる社会を目指して

MISSION

プロボノを進化させる

Quality Pro Bono Everywhere

常に質の高いプロボノを行うためノウハウを蓄積する

Do + Enable

他者との協働を通じてプロボノの可能性を広げる



GRANTのコーディネーターが80組織に

コーディネーターとしてGRANTを活用する組織がさらに増加。コーディネーターが複数のエントリー者からチーム編成を行える新機能もリリースしました。

ふるさとプロボノが、
ソトコト・ウェルビーイング
未来アワード2024を受賞



ソーシャルアクションアカデミー2024

約7カ月のプログラムに57名が参加。講座での学びを経て、「ひとり親家庭の実情」「クローズアップ・シブヤ」をテーマに、自発的に企画したアクションに取り組みました。



DO+ENABLE

社会参加オープナー養成プログラム 第2期

社会課題解決に向き合うNPO・地域団体と、プロボノワーカー・ボランティアをつなぐ、新たなソーシャルロール。2024年度は39名が修了、8名が認定を取得しました。



ママボノが 東京都女性活躍推進大賞特別賞を受賞



社会課題に
気づく人が増える

社会課題をテーマに
みんなが語り合える

立場を超えて協働できる

社会参加の機会や
仕組みが充実する

NPOメンタリングプログラム本格実施

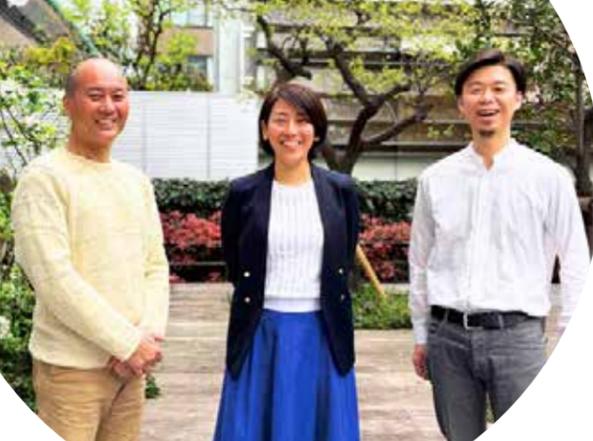
内閣府 令和6年度 孤独・孤立対策推進交付金を受けて実施拡大。12団体(18組)23名を、36名のプロボノワーカーで支援しました。



チーム型プロジェクトを中心とした ナレッジシェアの基盤づくり

自主活動の立ち上げなど参加者同士のシナジーが生まれてきた長期チーム型プログラムを中心として、オンライン・オフラインでの交流を促進しています。





写真左から
嵯峨 生馬 ファウンダー。2005年にサービスグラントを創業
岡本 祥公子 2009年入職。2025年4月より共同代表
横野 吉晃 2012年プロボノ参加、2017年入職。2025年4月より共同代表

新旧代表クロストーク

活動開始20年の感謝を込めて サービスグラントのこれまでとこれから

課題を解決する「仕組み」 その最適解を模索し続けてきた20年

嵯峨：はじまりは2005年。任意団体「サービスグラントTOKYO」として3つのプロボノプロジェクトを実施し、いくつかの失敗から仕組み化が大事だということを痛切に感じました。振り返ると、あれから5年ごとに大きな転換期があったように思います。2010年は「プロボノ元年」。前年に大規模なフォーラムを開催した波及効果で、各種メディアでプロボノが取り上げられました。「プロボノ」が知られるようになったことで登録者数も伸びていきました。2015年には、東京都との協働事業「東京ホームタウンプロジェクト」がスタート。地域の課題にプロボノの仕組みを活かす考え方は、各地へとプロボノが広がる起爆剤となりました。またこの頃から、プロボノワーカーのみならず自身の手で自立的・自主的にプロボノを広げてほしいという考えが強くなってきました。複数回プロジェクトに参加している人を中心に、プロジェクト組成の手前から関わったり、新しい取り組みの企画と実行を担ってもらったりする関係づくりにも力を入れてきました。2020年にはオンラインのプラットフォーム「GRANT」を立ち上げたことで、団体のニーズにこたえるスピード感やより小さなニーズへの対応の幅も広がり、プロジェクト数が一気に増えました。環境や状況や分野、期待などの条件の違いに応じて最適解を探し、仕組みをつくり出してきた20年だったと思います。

横野：「GRANT」は、プロボノワーカーが個人で主体的に活動できるような仕組みになっているので、自分に合った参加の選択肢が増えましたよね。

岡本：やればやるほど、いろいろな文脈が出てきて、その分広がってきた。続けてこられたのは、プロボノの成り立ちが本質的で、どの文脈でも価値を生み出せる多面性があるからですよね。

出会いの効果を最大化したい

嵯峨：これまで大切にしてきた価値観として、まず大事なのは支援先団体だということ。特に、団体のためというより、その先にいる受益者にどれだけ成果をもたらすことができるか。この視点がプログラムのベースになっています。プロボノワーカーの貴重な力をいかに発揮していただいて、支援先団体に対して最も高い効果を出すかという点を常に念頭に置いていました。一方で、効率一辺倒ではない楽しさや遊び心というか、プロボノワーカーのみならずは余暇を使って参加してくれているんだ、というところも意識してきたつもりです。

岡本：サービスグラントの立場としては、ホストオブザパーティーであろう、プレイフルでいこう、という思いはありますね。ジャズみたいに、コードは指定するけど主体性は奪わないような“いい塩梅”をずっと意識しています。

横野：現状維持は後退である、という話もよくしますね。新たな価値をどう生み出せるか、新しいチャレンジを常に忘れない、というのも20年の蓄積のベースにあると思っています。

岡本：とは言い、日本全体を見渡すと、課題解決のプレーヤーの数はまだニーズに追いついていない。未熟さでもあり、伸びしろでもありと感じています。

実践を通じた「自立と循環」が広がる場所を目指して

嵯峨：サービスグラントの最大の基盤は、支援先団体・プロボノワーカーの方々とのネットワークだと感じます。

岡本：社会課題解決に思いを注ぐ1千ものNPO・地域団体等と、仕事をもちながらも社会課題解決のために何かしようという人が1万人も集まっている！この素晴らしいコミュニティのポテンシャルをどう最大化していけるかというのは命題ですね。

横野：参加しやすい機会やプログラムがそろってきましたが、これから先、社会のどんなニーズに応えていくのか。個別団体を支援するだけではなく、複数の団体と連携して社会課題解決に取り組んだり、調査を通じて課題を可視化したりといったことのニーズもさらに増えてくるかもしれません。

岡本：団体のみなさんとは、いつでも相談してもらえるような関係性や仕組みを作りたい。そしてプロボノワーカーのみならずとは、「ソーシャルアクションアカデミー」や「社会参加オープナー」のようなプログラムを通じて、支援者から主体者へと、自ら社会課題解決に自然に関わり、周りも巻き込んでいくストーリーを生み出す源泉となっていけるかが、次の挑戦かなと思っています。

横野：すでにロールモデルとなる人たちが多数出てきていますよね。対話の場や刺激のきっかけがあれば、次のバトンを受け取る人が出てくる。気づいて飛び込んだ人からコミュニティが発生し、循環が生まれる。「自立と循環」のかたちで次の世代に向けても広がっていくといいかなと思っています。

岡本：サービスグラントは、市民性を育てる社会教育機関のような役割も果たしているかもしれません。社会参加の入り口として安心して参加でき、実践のなかで関心が育っていく。地域でも、特定のテーマでも、自分が取り組みたい 이슈が見つかって、関心の似た人同士が学びあって自ら動いていき、他者を動かしていく。まさにサービスグラントのロゴのような輪を増やしていきたいですね。

※サービスグラントウェブサイトにて本記事の完全版を公開しています。

NEW PROJECTS 2024

新たな取り組み

プロボノの可能性をさらに広げるために。 2024年度 新規事業開発の取り組み

これまでの活動で得た知見を活かし、次なる可能性を模索するため、今年度6つの新事業の開発に挑戦しました。学生の社会参加を通じて成長を促すとともに、プロボノのすそ野を広げる「YOUTHプロボノ」。働くママたちも当たり前に参加・貢献できる社会を作る「ママボノNEXT」。クリエイターの持つ力を最大限に発揮し、NPOとの新しい協働の仕組みづくりを目指す「クリエイティブプロボノ」。関西エリアの特色を生かしたプロボノコミュニティのさらなる発展を図る「関西コミュニティHUB」。NPO支援力を更に高めるための「ファンドレイジング」。個人の社会貢献活動の履歴を可視化し、キャリアと社会参加への活用を促す「NFT×ソーシャル履歴書」。それぞれにサービスグラントのポテンシャルを広げる成果を残し、次年度の継続的な取り組みへと結びつけました。



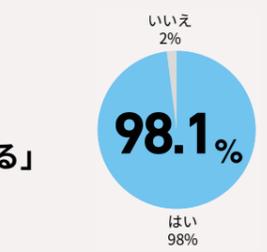
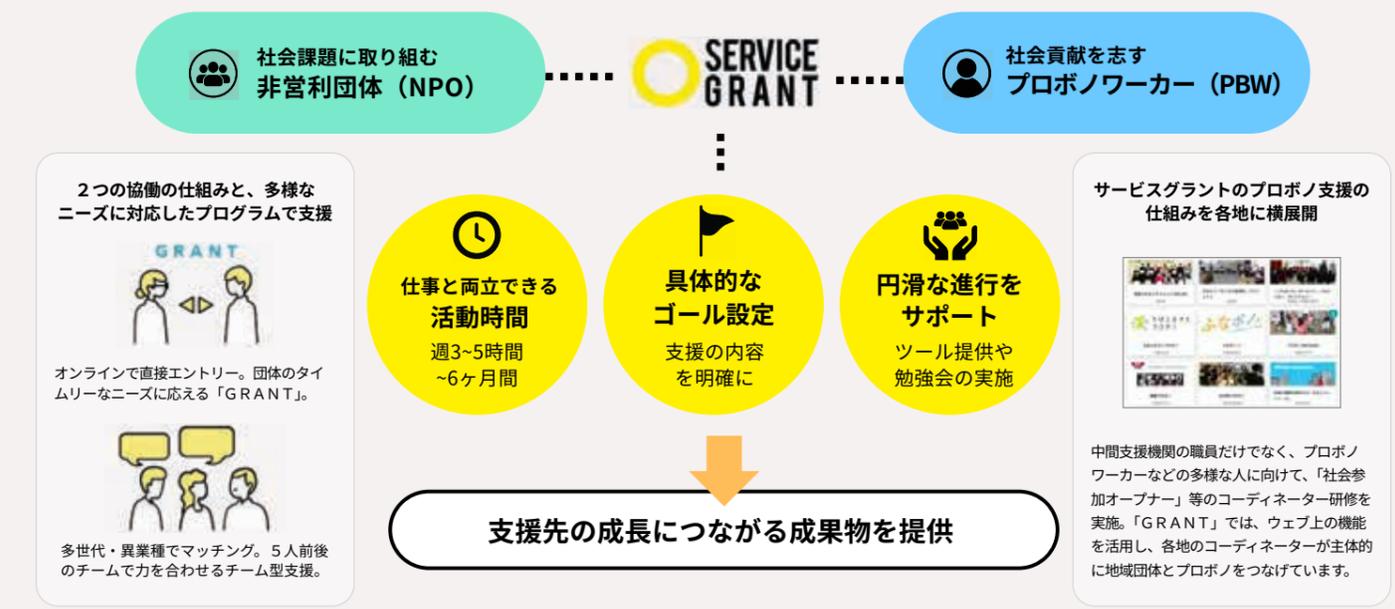
桃山学院大学 ビジネスデザイン学部生と実施した「コース・プロボノ」。

WHAT WE DO

サービスグラントの取り組み

サービスグラントの《プロボノ》と《プロジェクト型協働》

仕事で培った経験やスキルを活かした社会貢献活動「プロボノ」。その仕組みを日本に持ち帰り、活動をスタートしてから20年が経ちました。複雑な課題を抱える団体と、外部の多様な人との協働を成功させるうえでカギとなるのは、「プロジェクト型協働」。サービスグラントでは、日本に合ったよりよい仕組みをつくるために、改善と新たな取り組みの試行を繰り返しています。その結果、「プロボノ」は、社会課題解決に成果をもたらす手法として、また社会参加の機会として、着実に広がり続けています。



CROSS
TALK



武田 緑さん

NPO法人School Voice Project
理事・発起人

[活動概要]

山積する学校現場の課題を教職員の声の力で変えていく活動を行っているプラットフォーム。アンケートでの意見回収とWEBメディアでの発信などを通して、学校現場のリアリティや、個々の教職員の思いや考えに光を当て、社会に届けています。

[プロジェクトの内容]

自主・長期チーム型プロボノ支援

オンラインコミュニティ「エンタク」の参加者募集のため、事業を紹介する資料（パンフレット）を作成。プロジェクトマネージャー、マーケッター、コピーライター、グラフィックデザイナーとアカウントディレクターの6名で支援。

丁寧な理解と客観的な提案。 「らしさ」をすくい上げてくれた 「プロボノを活用してみは？」と勧められて

大阪に居た時に所属していたNPOで、サービスグラントの支援を受けているのを見ていた事がありました。2021年にSchool Voice Projectが立ち上がったのですが、しばらく経って団体運営について別の組織の方に相談した際に「プロボノを活用してみは？」と勧められたことが後押しとなり、2024年の長期チーム型プロジェクトの助成申請に応募しました。

主軸事業の二本柱の一つであるコミュニティ「エンタク」に人を増やす事が最優先課題。けれども、その価値を定められたり、言語化できていない感覚があり、事業紹介資料を作成するプロジェクトでお願いしました。

始まってからは、プロジェクトマネージャーの方がリードしてくださったのがとてもありがたかったです。特に印象に残っているのは、プロボノチームの方が、エンタクのサービスについて知人の先生にヒアリングしてくださった事です。「私が入っても大丈夫なのだろうかと不安になる」という声があったそうで、大きな気づきとなりました。どんな先生たちにとっても、セーフティネットになる場所でありたいし、実際入ってみるとそんなに敷居が高くはないはず。それを上手く伝えていきたいと思いました。

私たちだけでは出てこなかった表現

プロボノチームが、当たり前になっていた「らしさ」をすくい上げてくれたように感じました。私たちだけでは絶対に出てこなかった表現だったと思います。顔の見える関係の中で、人の温度と一緒に伝播していくようなツールの方がエンタクらしさもあっていいんじゃないかと、「現メンバーから信頼する人に“あなたに合ってると思う”と手渡ししていく」というコンセプトを提案してくれました。

まだ直接的なものではないですが、プロジェクトでお付き合いいただいている期間の中で、エンタクがとても活性化してきました。何か動いてきたなと感じています。このパンフレットも、ただサービスを受ける人のためではなく、「一緒に学校を変えていく仲間」の輪を広げていくためのツールになればと思っています。

丁寧な調査分析をもとに、プロボノチームから複数パターンのイメージを提案。全国から先生方が集まって活動している団体の特性に合わせて、打ち合わせはオンラインで。



社会参加マッチングプラットフォーム「GRANT」を活用したNPOの声

加藤愛梨さん
一般社団法人
We are Buddies

期間が3ヶ月と決まっていること、チームではなく1対1で関わるという仕組みが、私たちの活動にも合っていると感じてGRANTの利用を決めました。ミニマムな構成なのに、すごく濃密で大事なやりとりが詰まっています。私は本当にGRANTが大好きです。

GRANT by OPORT



▲「GRANT」はこちら



工藤 圭さん

IT企業勤務・
プロジェクトマネージャー

[参加プロジェクト]

長期チーム型プロボノ支援

ターサ・エデュケーション

活動運営マニュアル

フリースクールのスタッフ・ボランティアが子どもに接するときに、考え方や行動の方針が属人的になることを避けるため、ステークホルダーへのヒアリング結果をもとに、指針となる価値観を示す「クレド」を作成。(2023年度自主)

下丸子三丁目町会

町会運営業務の棚卸と効率化

現役世代も町会運営に参加しやすくなることを目指し、会長を中心とした役員の業務の棚卸・見える化を実施。みなで少しずつ手分けする仕組みを提案。(東京都つながり創生財団「まちのつながり応援事業」2024年度)

プロボノは、「知る」という第一歩。 やってみたから分かった、自分なりの関わり方

会社の外で自分に何ができるか確かめたくて

今後のキャリアを考えるなかで、転職とまではいかなくとも何か選択肢を持ちたいなと色々探していたときに、プロボノを知りました。最初は、社会貢献というよりも、会社の外で自分に何ができるか確かめたいという感覚が強かったのが正直なところです。

ですが、参加を通じて、社会課題を認知できたのは大きな変化でした。それまで存在も知らなかった活動について、自分の地域にもあるのか調べるようになり、寄付などの支援方法があることも分かりました。初めてのプロボノでフリースクールを訪れたのですが、実際に行って子どもたちやスタッフの様子を見て、特別な場所じゃないんだと気づけたことは、印象に残っています。

プロボノを体験する前は、NPOや地域の活動に対して自分が何を提供できるのかが見えなかったのですが、やってみるとなんとかなるもんだ、ということにも気づきました。まずは「知る」という大きな一歩を踏み出した気持ちです。会社の外で何かをすることの心理的なハードルもなくなり、自分の好奇心を軸に無邪気に「新しいワールド」に参加できるようにもなった気がしています。

プロボノでの出会いが、人生を豊かに

社会課題に触れたことで、私は自分の半径5メートルの課題に関心を持ちやすいということが見えてきて、最近、住んでいる地域のまちづくり活動にエントリーをしてみました。「困っていることの言語化」の支援がNPOや地域活動に役立ち、自分を生かせる事かもしれないという事にも気づけました。これからも、自分にじっくりく関わり方を探っていきたいです。

プロジェクトで一緒だったメンバーたちとはその後も繋がっています。たまたま一緒になった人が「仲間」となる、そんな魅力もプロボノにはあります。プロボノ後の仲間の活動に勇気づけられることもあり、そういった関係性が、人生を豊かにしてくれているなと思います。



◀支援先を訪問して、地域の様子も確認。対面でのコミュニケーションを重視。



▶プロジェクト終了後に、自主企画でチームメンバーとの振り返りを実施。



社会参加マッチングプラットフォーム「GRANT」を活用したプロボノワーカーの声

武末麻子さん
フリーランス（広報）

GRANTには、多様な団体・プロジェクトが載っているので、自分の興味の範囲で選ぶものとは全く違うことに取り組めるのは魅力だと思います。いつもと違う関わりを持ってみようという気楽なスタンス、その結果が社会貢献につながれば素敵なことだと感じています。

GRANT by OPORT



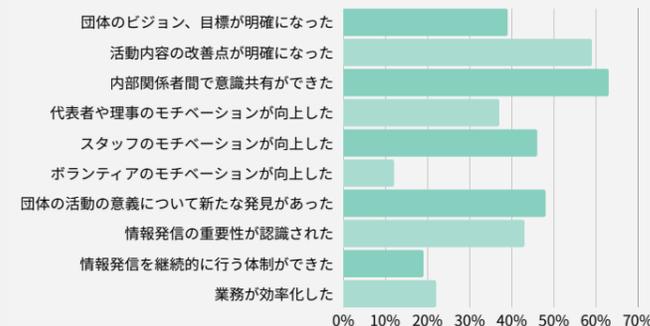
▲「GRANT」参加者の声の一覧はこちら

プロジェクトの成果

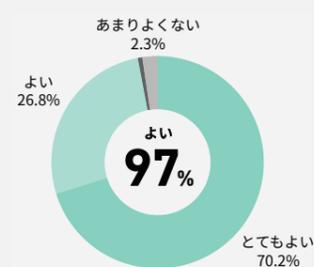
サービスグラント自主・長期チーム型プロジェクト
2012～2024年度支援団体の回答（N=303）

年間件数 **350** チーム型・GRANT合計
プロジェクト

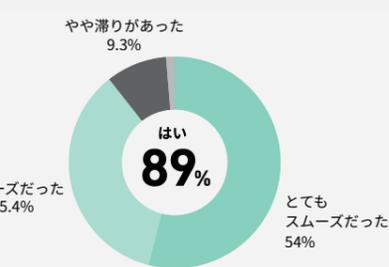
Q. サービスグラントの支援を受けたことにより、団体内部の“意識”に変化はありましたか？（複数回答）



Q. 成果物について、どのように感じていますか？



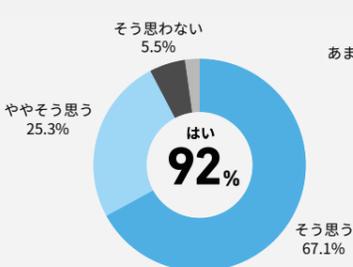
Q. チームとのコミュニケーションはスムーズでしたか？



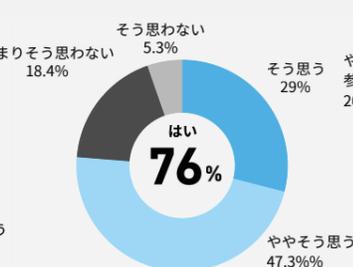
プロボノ参加者の変化

サービスグラント チーム型プロジェクト
～2024年度参加者の回答（参加者 N=3,157）

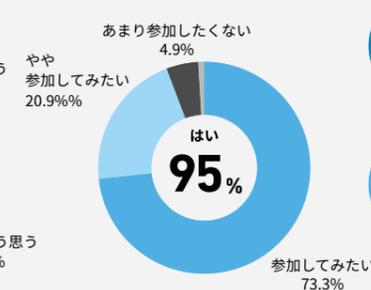
Q. 自身の視野が広がったり、人間的成長につながったと感じますか？



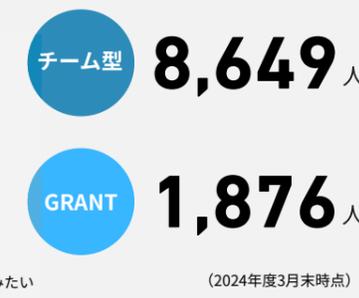
Q. 仕事で新しい取り組みにチャレンジしたいと思いませんか？



Q. またサービスグラントのプロボノプロジェクトに参加してみたいと思いませんか？



プロボノワーカー登録者数：



EXPANDING COLLABORATION

広がる協働

2024年度協働プログラムの実績

これまでに、企業27社、31の行政機関、11の財団・中間支援組織がサービスグラントと協働で独自のプロボノプログラムを実施

これまでにサービスグラントで行われたプロジェクトは2,308件。NPOやプロボノワーカーだけでなく、企業・行政・財団・学術機関など、多様な組織・人々と共に、社会課題解決に向けて協働してきました。気づけば、日本各地にプロボノの輪が広がり、地域や課題の特性にあわせた多様なスタイルが生まれています。

※支援先団体所在地の都道府県を、これまでに実施したプロジェクト件数に応じて色分けしています。

◎は各種機関との協働プログラムの実施エリアを表しています。



企業協働の詳細



行政協働の詳細

企業協働



株式会社三井住友 フィナンシャルグループ

**SMBCグループ
プロボノワークプロジェクト**
5団体を対象に、30名のグループ社員が参加し、6ヶ月間をかけてマーケティング調査や営業資料作成等のプロボノの支援を実施しました。



パナソニック ホールディングス株式会社

**Panasonic
NPO/NGOサポート プロボノ プログラム**
累計432名が参加。32名が5団体を支援し、事業計画や調査を通じてNPOの組織基盤強化に寄与しました。



住友商事株式会社

**住友商事
教育支援プロボノ**
上期は、17名の社員が3団体に対してプロボノを実施。下期は、環境教育を行う団体を招き、参加型セミナーと対面でのワークショップを実施しました。



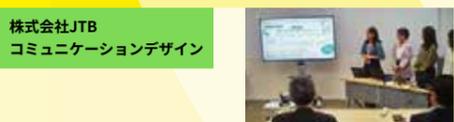
SAPジャパン株式会社

SAPジャパンプロボノプログラム
社員自らが主体的に、CSR活動の一環としてプログラムの運営から実施までを担います。2024年は17名の社員が、2団体の課題解決に取り組みました。



富国生命保険相互会社

新経営塾 プロボノ研修
若手社員の自律と社会感度を高める目的のもと研修形式で実施。2024年は36名の社員が4-5名のチームを編成し、4団体を支援しました。



株式会社JTB コミュニケーションデザイン

**JTBコミュニケーションデザイン
プロボノプログラム**
社会貢献を体感し個人や会社の成長へと繋げる活動。8名の入社2年目の社員が、3か月で2団体を支援しました。



協働プログラム①

プロボノリーグ

複数社、異業種のメンバーでチームを組んで取り組む、人材育成・越境学習プログラム「プロボノリーグ」。地域創生編（広島・NPO法人三段峡・大田川流域研究会）、NPO編（東京・NPO法人サンカクシャ）の課題解決に、7社17名が取り組みました。



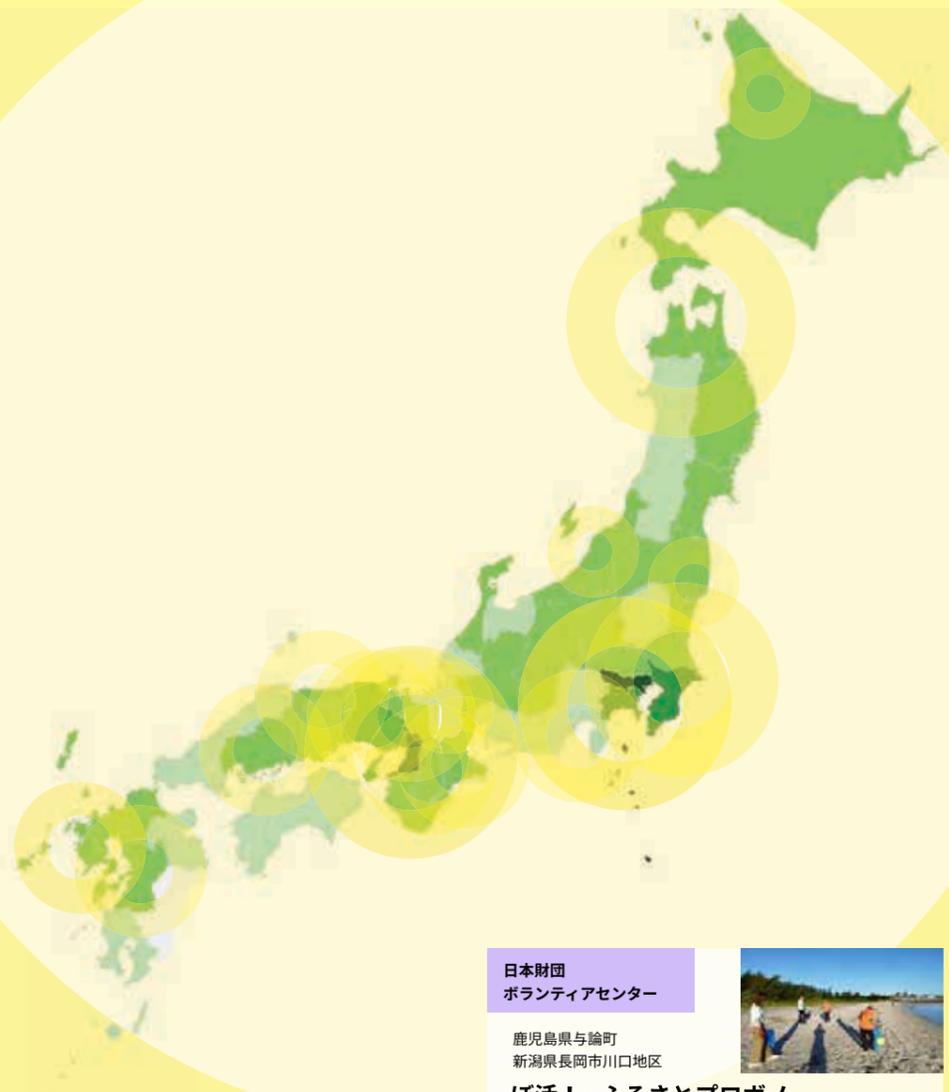
参加企業
フコクしんらい生命保険株式会社
株式会社アイシン
セイコーエプソン株式会社
リコーリース株式会社
株式会社マナック・ケミカル・パートナーズ
株式会社ドコモCS中国
東日本電信電話株式会社



協働プログラム②

スコーパソン

スコーパソンは、団体の課題を棚卸・整理し、具体的な支援ニーズへ落とし込むことで、支援機会の創出をめざす、短期集中イベントです。
参加企業
大和アセットマネジメント株式会社
中堅社員向けの研修として、スコーパソンを実施。当日は7名が対面で集まり(1名はオンライン参加)、2団体の課題を整理し、GRANTでのプロボノ募集記事を作成しました。



東京都つながり創生財団

地域活動支援事業

まちのつながり応援事業

より良い地域づくりを目指す都内の町会・自治会を支援。2017年より150団体を支援。参加したプロボノワーカーはのべ360人以上。

大阪府 福祉部
高齢介護室介護支援課

大阪ええまちプロジェクト

高齢者の生活支援・介護予防につながる地域活動への支援に加えて、市町村のデータ分析支援「大阪ええまち調査隊」を本格実施。

渋谷区社会福祉協議会

結・しぶや

渋谷区における重層的支援体制整備事業の一環として、渋谷区社会福祉協議会と協働し、団体支援等を通じた取り組みを実施。

東京都障害者スポーツ協会

**「パラスポーツ団体体制強化支援事業」
外部連携支援**

都域を統括する障害者スポーツ競技2団体に対して、10名のプロボノによる協働プロジェクトを実施。団体の運営基盤強化につながる成果物を提供した。

神奈川県 横浜市健康福祉局

ハマボノ・オンライン

横浜型地域包括ケアシステムの構築を目指し、地域活動団体とプロボノワーカーのマッチングを実施。

武蔵野市市民部

**武蔵野
プロボノプロジェクト（むさぼの）**

武蔵野市がコーディネーターとなり、コミュニティセンターを運営する市民団体を支援するプロボノ事業を開始。

全国こども食堂支援センター
(むすびえ)

**こども食堂を通じた
学び・つながり&らしく働くプロジェクト**

「学びやキャリア」の機会拡大を目指した活動を行う全国のこども食堂をプロボノにより支援するプログラム。

千葉県

ちばボランティアナビ

千葉県内のボランティア促進・定着のため、15団体の個別支援、年10回の体験会を実施。マッチング支援を通じて年1,255人の参加を実現。

東京都 福祉局

地域参加のトピラ

人生100年時代社会参加マッチング事業 オンラインプラットフォーム先行実施。93の団体・介護施設が登録、549件の活動を紹介し、のべ618人のアクションにつながる。

東京都スポーツ協会

**「競技団体等組織基盤強化支援事業」
外部連携支援**

協会に加盟するスポーツ競技・種目2団体および地区体育・スポーツ協会1団体に対して、15名のプロボノによる協働プロジェクトを実施。運営基盤強化につながる成果物を提供した。

松戸市福祉長寿部

プロボノMATSUDO

地域活動への参加で健康寿命を延ばす取り組みの松戸プロジェクトにおいて、4つの団体の運営基盤の強化を支援。

名古屋市 スポーツ市民局
地域振興課

**名古屋市
プロボノプロジェクト**

地域活動支援に関わる職員向け研修をふまえ、学区連絡協議会に向けたプロボノプロジェクトをモデル実施。

その他の協働先

長崎県
港区 産業・地域振興支援部
四日市市 市民生活部 市民協働安全課
一般社団法人 BLP-Network
一般社団法人パラスポーツ推進ネットワーク
株式会社RODORI（茨城県女性活躍・県民協働課）
ほか

行政・その他協働

日本財団
ボランティアセンター

鹿児島県与論町
新潟県長岡市川口地区

ぼ活！×ふるさとプロボノ

企業人10人が2チームに分かれ、離島の子育て支援や交通空白地域におけるコミュニティバスなど、地域課題の難問に挑戦。

住友金属鉱山株式会社

住友金属鉱山プロボノプロジェクト

総務部や人事部の社員が参加し、拠点のある東京都青梅市と愛媛県の2団体に対して、営業資料を作成するプロジェクトを試行しました。

次のステージに向けて

2025年4月、サービスグラントが新たな体制でスタートを切りました。社会におけるプロボノの認知度が高まり、関心を持つ人は増えています。NPOのニーズは常にあり続けています。プロジェクトの実績が蓄積し、「GRANT」というインフラが生まれ、プロボノを支える仕組みが整ってきました。ただ、仕組みやシステムといったものが本当の意味で役に立つ最後の決め手となるのは、やはり、人だろうと思います。

はじめてプロボノに参加する方にとって、困りごとを抱えたNPOのみなさんにとって、身を任せられる安全地帯であること。それが、サービスグラントが発揮し得る真骨頂ではないかと思えます。サービスグラントに関わってよかった、サービスグラントがあったからこそ次の一步を踏み出せた…そんな声をいただき続ける場を目指すとともに、皆さまの経験にもとづく生の声やフィードバックをお寄せいただきながら、ステークホルダーの皆さまの力でサービスグラントを育てていただければ何よりです。

(ファウンダー 嵯峨 生馬)



日本中のNPOに、あなたのエールを。

この1年間、サービスグラントに関わる皆さまのおかげで、350件のプロボノプロジェクトを運営。約2,000人の社会参加機会をコーディネートし、多数のNPO・地域団体が新たな出会いによる力を得て、次の一步を踏み出すことにつながっています。また、参加した市民一人ひとりが、自らの力を誰かのために活かす喜びを感じる。そんな小さな変化があちこちで生まれ、福祉、まちづくり、教育など、地域の中に、そして日本社会の中に支え合いの輪が少しずつ広がっています。

こうした歩みのひとつひとつは、皆さまからのご支援によって支えられてきたものです。寄付金によるご支援は、単なる財源ではありません。サービスグラントの挑戦を信じてくださる、心からのエールとして、私たちに大きな力を与えてくれます。

これからもプロボノを通じて、さまざまなつながりを生み出し、社会に求められる仕組みを広げていく挑戦を、自信をもって続けていけるよう、皆さまのより一層の応援を心よりお願いします。



支援先団体の声

“ 組織の課題について自分たちだけで悩むよりも、こうして他の皆さんの知恵を借りることで、一歩前進できるんだと感じました。

“ プロボノメンバーの方はもちろんのこと、こういった仕組みを構築し、運営してくださっているサービスグラントの皆様にご感謝申し上げます。

“ このようなサービスがあることをもっともっと周りの方知っていただければ、『また明日もがんばろう』と心元気に活動を続けていけるのだと思います。

たくさんの方に支えていただきました

2023年度（2023年10月～2024年9月）

寄付者数 **114** 名

寄付金額 **4,486,090** 円

頂いたご寄付は、いつでもプロボノ支援募集・マッチングができるオンラインプラットフォーム「GRANT」の運用と改良、社会の現状とNPOの課題に寄り添い、社会課題解決の推進につなげるための新たなプログラムの開発などに活用しています。

寄付者の声

“ 中間支援組織に寄付する発想がこれまでなかったのですが、こういう活動があることで社会関係資本ができ、寄付文化が広がると実感しました。

“ プロボノを通じて、たくさん社会課題が存在し、解決しようと活動したり、支援する人達がいることを知りました。これからも頑張ってください！

サービスグラントに寄付していただくと、**最大40%のお金が戻ってきます。**

最大 **40%**
のお金が戻ってきます

※サービスグラントは、東京都から「認定NPO法人」として認定されています。寄付者は申請により、税額控除を受けることができます。税額控除の金額は、次の計算式で求めることができます。ご支援くださる皆さまには、所得税、法人税、相続税などの税制上の優遇措置を受けていただくことができます。特に個人の方の場合、最大で寄付金額の約40%を、所得税から控除することができます。

例) 15,000円のご寄付で、約5,000円の控除

(寄付額-2,000円) × 40% = 所得税から税額控除される金額
5口分の場合、(15,000円-2,000円) × 40% = 5,200円 の税額控除

ご支援の方法

1口3,000円から（1口以上・何口でも可）のご支援をお願いいたします。みなさまからのご支援が、プロボノの輪を地域や社会に広げる力になります。

ご寄付はこちら



FINANCIAL REPORT

会計報告

2023年10月1日～2024年9月30日

(※サービスグラントの会計年度は9月末決算のため、本報告書の内容で含まれていないものがあります)

科目	小計・合計
[A] 経常収益	242,929,241
1.正会員受取会費	118,000
2.受取寄付金	4,486,090
3.受取助成金等	0
4.事業収益	238,314,831
5.受取利息	10,320
[B] 経常費用	204,020,631
1.事業費	185,133,204
2.管理費	18,887,427
当期経常増減額 (A-B)	38,908,610
[C] 経常外収益	0
[D] 経常外費用	0
当期経常外増減額 (C-D)	0
税引前当期正味財産増減額 (A-B)+(C-D)	38,908,610
法人税、住民税及び事業税	9,784,000
前期繰越正味財産額	111,090,946
次期繰越正味財産額	140,215,556

事業収益	金額
サービスグラントの提供を通じたNPO支援事業	1,941,756
企業・行政等との連携によるプロボノプログラムの事業	232,521,040
プロボノプログラムの運営を担う人材育成事業	775,875
プロボノの普及・広報・社会的制度化に関する事業	3,076,160

1.事業費	
人件費	89,804,373
法定福利費	13,821,539
外注費	46,030,776
租税公課	13,473,385
旅費交通費	7,659,937
通信運搬費	2,364,129
会議費	4,907,378
印刷製本費	1,718,902
地代家賃	1,369,392
減価償却費	1,431,264
その他経費	2,552,129
2.管理費	
人件費	6,327,743
法定福利費	934,095
支払手数料	2,125,251
地代家賃	4,987,343
支払報酬料	1,643,400
その他経費	2,869,595